

## 令和4年度 第2回江南市地域福祉計画推進委員会 会議録

日時：令和5年2月9日（木） 午前10時00分～11時30分

場所：江南市防災センター3階 仮眠待機室・救護室

出席者：会長 柏原 正尚 副会長 石川 勇男  
委員 船戸 正憲 委員 野呂 美鈴  
委員 暮石 浩章 委員 高橋 正博  
委員 永田 裕美子 委員 河合 荘太郎  
委員 佐藤 豊子 委員 伊代田 誠二  
欠席者：委員 三ツ口 文寛 委員 中村 祥  
委員 今井 聖治

事務局：江南市健康福祉部長、福祉課  
江南市社会福祉協議会事務局

傍聴者数：2名

### 1. 会議次第

1. あいさつ
2. 令和4年度江南市地域福祉に関するアンケート調査結果について  
(資料1)
3. 専門機関アンケートの実施について (資料2)
4. 地域福祉活動を進める区域設定について (資料3)
5. 地域福祉懇談会の開催について (資料4)
6. その他  
(1) 老人福祉センターの建替えに関するパブリックコメントの実施について (資料5)

### 2. 会議経過

1. あいさつ  
(江南市地域福祉計画推進委員会会長)  
あいさつ
2. 令和4年度江南市地域福祉に関するアンケート調査結果について  
(事務局)  
資料1に基づき説明

(会長)

年代別に回答数が違っているかどうか。江南市全体の縮図だと考えると、無作為抽出 2,000 人のなかで半分弱、そのうち年代で回収率も違うと思う。男女比で年齢が高いと男性より女性の方が多いとか、あるいは、若年者でどちらのほうに回答されたかとか、30代40代の働き盛りの方たちのなかでも男性か女性かによって意見が違うのではないかと思う。今後、この資料を分析して使っていけるのかというのは、十分吟味したほうがよい。

そのように思った根拠のひとつとして、16 ページ問 8 の下部の表に 20 代以下の回答の多い第 2 位が「高齢者福祉サービス（介護保険含む）を受けている」となっている。若い人が高齢者福祉サービスを受けているとは考えにくい。これは私の認識だとあり得ない。30代でもなかなかない。介護保険を含んだとしても 40 代以上だと思う。適当に答えている可能性もあるので、そういったことを十分注意したうえで慎重に使ったほうがよいと思う。男女比も含めて、基礎的なデータを確認しているんなことに意見を反映してあるとしたほうが、ミスリードが少ないのでは。

17 ページ下部の年代別の電子機器類の使用についても 70 代以上で急激に減っている。「70 代以上」とは 70 歳代の人と 80 歳代以上の人が含まれているので年齢の幅が広い区分であるので、それによって大分違うような気がするし、性別によっても違うかもしれない。ここで回答しているのはこのような人たちだ、ということがわかったうえでの反映であるということが見えやすいとよいのでは。例えば、回答率が多い層を記載してあったり、60 代の女性の回答が多い、とかがあれば、イメージしやすいような気がする。データの使い方も、総花でよさそうに見えるのだが、計画に反映にするにはイメージがあったほうが、活動に繋げやすいのでは。全体でイメージの確認ができるともう少し、皆さまもご意見をだしやすいかもしれない。

(事務局)

12 ページにご自身についての性別、年齢、現在住んでいる小学校区、住所という形で掲載がある。アンケートの対象者は江南市民の 2,000 人を抽出したが、単純に無作為抽出をして（抽出自体に）ぶれが生じると江南市の縮図にはならないので、抽出条件を設けた。男女、性別、居住区など、江南市の縮図になるよう抽出をしている。

回答率についてだが、男性が 43.5%、女性が 54.6%であった。発送数からすると、若干女性の回答率が高いということが認識としてある。

年齢別についてだが、年齢が上がるほど回答率が高くなっており、特に 70 代以上の回答率が高い。働き盛りの 30 代 40 代の方は福祉に関する関心が自身の話

ではなかったりするので回答率が低くなったのかもしれない。現在住んでいる小学校区については、回答数がほぼ人口に比例していたので、取り立ててどこかの地域で回答数が極端に高い低いという例は見受けられなかった。

そのうえで、先ほど会長から助言いただいた分析については、このアンケート結果を政策に反映するにあたっては、しっかりと分析を行う、考えるべきであるということという意見をいただいたので、今後、来年度にかけてこの計画について策定するなか、コンサルと調整をしながら委員の皆様を示していきたいと考えている。

(会長)

今、事務局が言っていたことは大変重要なことである。2ページの調査の実施概要に書いた方がよいと思う。「無作為抽出」だけ書いてあると（完全に）ランダムに抽出したと思われてしまう恐れがある。無作為抽出といっても層別になっているし、多段抽出もしていることを記載しておくべきである。

分析に基づいて何か政策をするというよりは、「政策を進めていくときの根拠にしていきたい」という考え方でデータを使っていくイメージのほうがよいと思う。よりよい計画をつくるにあたり、資料として使っていければと思う。

年齢別によって回答率が違うということは江南市や（その他の地域での）最近の傾向である。そういったことも見えると、情報として伝わるし、その割に地区ごとに違いがないということは江南市の特徴かもしれないので、意外に重要な結果であると思う。せっかく把握しているのにもったいない。今の話を基にデータを見ていただくと見方が違ってくるかもしれない。年齢が高い人の意見が多く反映されている。若い世代がアンケートに回答していただきにくいことはよくある事なので仕方ないことではある。

では、次の議題「3 専門機関アンケートの実施について」事務局より説明をお願いします。

### 3. 専門機関アンケートの実施について

(事務局)

資料2に基づき説明

(会長)

「問2 事業活動を通じて、特に相談を受ける悩みごとや不安等にはどのようなものがありますか（〇はいくつでも）」とあるが、相談を受けている専門機関

となると選択肢に○をつける数が多くなると思うのだが、これはどのように分析していくのか。

(事務局)

様々な困難事例の実態を知ることができると考えている。具体例は問3に書かせていただいたが、例えば8050問題、ごみ屋敷、市でも様々なケースに関わることがある。そういったなかで単一の問題では解決しないというのが実情である。8050問題は80歳代の親がいて50歳代のひきこもりの方が家庭にいるという状態だが、これを解決するためには、80歳代は介護保険を使いながら生活をしていく、50歳代の方はひきこもりの支援をしていくという形で、単一機関では解決ができないという形になる。恐らく各機関が目当たりにしている困難事例についても、回答する選択肢に○をつける数が多くなると思う。高齢者の事業所でも、例えば、障害者の方の相談も受ける、様々な生活困窮に関する相談も受ける、という現状をこのアンケートで明らかにして、(分野に囚われない)幅広い相談を各専門機関が受けているという回答が得られるならば、それに対する対応策も検討していかなければならないということも考えている。○を付ける数が多くなるのはあり得るという考えでこのアンケートを作った。

(会長)

市では様々な会議の場等で、皮膚感覚でいろいろなことをご存知だと思う。それをデータ化しておきたいという思いがあるのかと思った。○がいくつでもよいとウエイトがわかりにくい。市としては幅広くやりたいのでこのような設問になったのであると思うが、重複したところをどうやって見るかとか、新たな仕組みを作るときの根拠にしていくのだろうと思ったため質問させていただいた。

(事務局)

ウエイトの問題というのは専門機関として軽重はあるかと思う。介護保険事業所であれば、当然、高齢者の相談を基本的には受けているだろうということは考えている。先ほども申し上げたが、各専門機関が専門外の部分についても相談として寄せられている。実例として、専門機関から相談を受けたことがあるのだが、専門外なので、どう繋いでいけばよいか、体制づくりについて今悩んでいるということをお聞きしたことがある。アンケートを回収し、統計を取るなかで、高齢者に関する事業所にもかかわらず、障害に関する相談を受けている事業所の割合が高かったり低かったりするのかな、様々な分野の幅広い相談を受けているのか、という状況をまず確認したいというのがこの設問の趣旨になっている。分析もそれに沿ってと考えている。

(会長)

重層的な支援体制を整備につなげていくための根拠資料にしたいということでよいか。

(事務局)

そうである。もし、重層的な支援体制を求められるのであれば、地域福祉計画を重層的支援体制の整備計画に位置付けをしていかなければならない。その必要性があるかどうかを把握するための基礎資料となるのがこのアンケートだと考えている。それも可能性のひとつとしてとらえながらのアンケートとしてやっていきたい。

(会長)

これは全国的な動きなのだが、江南市の状況に応じてどのように整備していくかということが、市民の生活を支えるうえで重要である。地域福祉計画の推進も皆さま一人ひとりの知恵や感覚だけではなく、広い意味でいろいろな情報を得て反映していくことが大事だと思う。調査結果が出てくると、専門機関なので専門的な話が増えると思う。しかも自由記述が多いので余計に専門的な内容になってくるので、それをいかにシンプルに分析して整理するかは結構難しいと思う。専門的なことを羅列されると大変なのではないか。委員の皆さまは専門的な知見をお持ちの方たちなのでご意見を伺いたい。ご質問等はないか。おそらく、専門機関は日々忙しい業務をされているなかで書いていただくことになるので、しっかりその情報は反映して使えるものにしたほうがよいと思っている。それを含めると、少しでもよいものにしたほうがよいのではと感じる。

もしよければ、アンケートはこれで進めさせていただく。市で把握されているような情報であるとか、会議の状況とか、社協で掴んでいる地域の状況とかもうまく重ねていけるような、情報をまとめていけるようなものに使っていただけるとよいと思う。

(委員一同)

異議なし。

(会長)

では、次の議題の「4 地域福祉活動を進める区域設定について」を事務局より説明をお願いします。

#### 4. 地域福祉活動を進める区域設定について

(事務局)

資料3に基づき説明

(会長)

何か意見はあるか。

中学校区は人口比率的にはよいかもしいれないが、生活感覚としては（この新たな）5区分のほうがよいのでは。

(事務局)

人口についてだが、江南市では古知野区が大きなウエイトを占めている。身近な肌感覚でいう皆さまの地域というのは自治会が基礎単位であるということを鑑みた結果、このような形で提案をさせていただいた。

(会長)

町内会もこの5つのエリアごとに会議があるか。

(事務局)

そのあたりは区によってかわる。古知野区はかなり大きな区である。

(事務局)

旧町村の合併エリアが4地区と、江南団地があるが、旧町村の4地区については今も繋がりが続いている。江南団地は自治会があるので5地区それぞれの関わりは今もある。

(会長)

懇談会をやるうえでは、こちらの方がよいということか。

(事務局)

そうである。

(会長)

それを皆さまの感覚でどう思うのかを聞きたいのだが、何か違和感はあるか。

(委員)

学校区よりはこちらのほうが違和感ない。旧町村の区域で今でも付き合いがあり、そちらの方が密になっている。学校区だとわかれているところもある。地域の関係からすると、こちらのほうが自然のような気がする。

(会長)

他の皆さまはいかが思うか。若い世代や子どもだと市全体とか学校単位とか、また違うところでの情報収集が必要なのもかもしれないが、懇談会としてはこのようにさせていただくがよいか。

(委員)

古知野区は人数が多いのだが、古知野区はどのようにわけるとか。

(事務局)

具体的には次の議題で説明をさせていただくのだが、古知野区は人口が多いので2つにわけて2回開催してバランスをとるような形を考えている。

(委員)

古知野区は大きい地区なので、ひとつにまとめられても古知野区全体で交流があるわけではない。古知野区を分けることはおかしくないのでは。

(会長)

今の話をふまえると、次の議題も含めて議論させていただいてもよいか。

大枠の設定としては中学校区から変えたいということ合意していただいて、実際に懇談会をどうやるかということも含めて圏域をもう少しわけたほうがいいのではないかと、それでも工夫次第でよいのではないかと意見もいただきながら決めていきたい。

では、次の議題の「5 地域福祉懇談会の開催について」事務局より説明をお願いします。

## 5. 地域福祉懇談会の開催について

(事務局)

資料4に基づき説明

(会長)

ひとりでも多くの方に集ってもらいやすい可能性を探るとしたら、働いている方は昼に参加できないので夜ということがあった。ただ、夜だと厳しい方も出てくるので今度は昼間に見てみたいということだと理解はしている。そうすると、夜しか来られない方は最初から外れてしまうので、できれば各町内会で、何か困り事であるとか、こういう地域にしたいであるとか、普段の会合のなかで、どこかで意見が反映できるように、要望を出してもらって仕組みをつくるといいと思う。その機会を作っておきながらも、目の前の人と一緒に話し合ったり考えたりする機会もしっかり確保する、という市や社協のスタンスを市民に向けて出したほうがよい。計画を策定したり、推進したりしていく上では懇談会は重要と思うので、グループで顔が見える形でやっていくというのは、やっぱり重要だと思う。

(委員)

地域福祉懇談会のメンバーを見たのだが、区長と民生児童委員ばかりである。

(事務局)

参加条件は設けないので一般市民も出ることができる。ただ、区長には声をかけさせていただくというだけであり、区長でなければ出られないというわけではない。

(委員)

何年前に開催された地域福祉懇談会は老人クラブなども参加していた今回はメンバーとして入ってくるのか。

(事務局)

市民には広報等で広くお知らせさせていただき、そのうえで、区長や民生委員には声かけをさせていただく。また、仕事で活動されている方々にも声かけをさせていただこうと思っている。例えば、サロンの方、ボランティアで活動されている方については社協が把握している団体もあるので、声をかけさせていただく。

(委員)

なぜ、このような質問をしたかという、高齢者の買い物支援をいま立ち上げているため、意見を出す場は非常に大事なため、なるべく広く知ってほしいと思った。

(事務局)

まさにその話は地域包括支援センターからも話をいただいている。非常によい取り組みを宮後中区では行っているのので、他の地区でもできるのであれば広めていきたいと思っている。

(会長)

今のは大変重要だと思う。成功体験やモデルになりそうなことを懇談会の前に話していただくとか、先ほど事務局の説明で「夢」とおっしゃったのだが、そういうことを言いたくなるようにすることが重要だと思う。中には地域課題として、「こんなに困っているんだ」ということをおっしゃりたい方もいると思う。それをコーディネーターとして市や社協が入ると思うので、上手く肯定的に捉えて、意見として夢を繋げていってもらえるような場になるとよい。一番よくないのは無関心である。市民が無関心では地域福祉の活動というのはなかなか進まなくなるので、まずは批判もひっくるめて関心を持ってもらうことが重要である。どのような参加の仕方があるのかは工夫次第なので、懇談会は大事かと思う。

他に意見はあるか。

(委員)

地域福祉は高齢者にまつわるだけでなく、子どもに関することも含まれるのではないのか。

(会長)

もちろんである。

(委員)

このメンバーを見ると高齢者が多いように思う。区長を引き受けている人は高齢者が多い。民生委員もある程度の年齢以上の方が多。若い世代の方が所属する団体やサークルに呼びかけてはどうか。そういった若い方が参加する術はないのか。

(事務局)

子ども会や関係団体に事前にどこまで声かけするかというのは、これから私たちも練っていくのだが、子どもを持っている世代の方からも意見がいただけるような形を考えさせていただく。

(会長)

懇談会としての提案について、理解はしている。しかし、懇談会だけではなくて違う形でもご意見をいただけるような仕組みを作っていったほうがよい。

(委員)

私は藤ヶ丘地区なのだが、この表を見ると区長1名、民生児童委員15名の合計16名である。16名中13名は就労しており、昼に会議に出るには休暇を取らないといけないので、夜の方がよいと思うがどうか。

藤ヶ丘の場合は12月改選のときに40代が6名程、50代が4名程いる。若い世代なので子どもに関することも聞けると思うし、現役世代の意見を聞きたいのなるべく会議に参加していただきたい。そうするとやはり夜に会議を開催したほうがよいと思う。

(事務局)

後程、相談させていただく。

(会長)

負担の度合いになってくる。職員の負担もあるし、全員が一番よい時間ということとはできない。そのなかで、今回決めた時間から漏れる人の意見をどう吸い上げるかを一緒に提案していただけるとよいと思う。地区によって少し検討が必要かもしれない。概ね、この圏域の変更と進め方はご了承いただけるか。

(委員一同)

異議なし。

(会長)

では、次の議題の「6 その他(1)老人福祉センターの建替えに関するパブリックコメントの実施について」事務局より説明をお願いします。

## 6 その他

(1)老人福祉センターの建替えに関するパブリックコメントの実施について  
(事務局)

資料5に基づき説明

(会長)

何か意見はあるか。

(委員一同)

異議なし。

(会長)

もし意見があれば事務局までご連絡をお願いします。

それでは全ての議題が終了したので、進行を事務局にお返しする。

議題終了